



季節を知ったら
暮らしが楽しくなった

〔第三四三号〕

春分 しゅんぶん

三月二十日

丸八の大漁祈願

鳥羽の離島、答志島^{とうしじま}。島にある三つの集落、答志、和具、桃取地区ではそれぞれに八幡神社例祭、神祭^{じんさい}と呼ばれる弓引きが行われます。コロナ禍の今年は、二月二十八日(旧暦一月十七日)、和具地区でのみ弓引きがありました。

和具の八幡神社は、集落を抜けた大間の浜^{おおま}と呼ばれる海辺にあります。明治時代に一度は美多羅志神社^{みたらし}に合祀^{ごうし}されましたが、その後再び分祀^{ぶんし}され、この海辺に瑞垣^{みずがき}を巡らせた社殿が建ちました。島の祝い事には欠かせない赤い魚二匹を藁で通した「掛け魚^{かけうお}」が、瑞垣にかけられています。

その近くで、弓引きの「的作り」が行われます。二つ割りにした雄竹を縦横に編み上げ、畳一帖ほどの骨組みを作ります。そこに煮詰めたフノリを塗って長細い和紙をていねいに貼り、さらに各家庭から集めた半紙を塗り重ねて仕上げます。

そこに、消し炭を袋に入れて砕いた炭の粉とフノリを混ぜ、練り上げた「スミ」^{まろはち}を丸八の文字に盛っていきます。八は、八幡神の八です。スミは数センチの厚みに仕上げます。そして仕上がった的を的場に設置すると弓引きに。二人目の射手が的を射ると、とたんに待ち構えていた男衆が的に殺到し、「スミ」を奪い合います。手にしたスミは浜の海水で清め、その後、各家に持ち帰り、大漁・海上安全や家内安全を祈り、家の玄関や船などに丸八のマークをそれぞれに描くのです。

大切なスミに使う海藻のフノリは春、ワカメ漁を終えると採取すると聞きました。来年は通常の神祭ができますように。

文 千種清美



おかげの里便り

おかげ横丁

○『春の特別奉納芸能』

春には桜の木に宿るとされる山の神を喜ばせるため、和太鼓による特別奉納演奏を行います。山の神は田植の時期が始まると田んぼに移って田の神となり農事を見守ります。無事田植えが終わるのを見届けると、また山に帰って行くと言われていきます。

と き／4月3日(土)・4日(日)

ところ／おかげ横丁太鼓櫓

出演／四日市諏訪太鼓 龍雅(四日市)、磯部楽打ち(志摩市)

(ゲスト)志多ら(愛知県)

● 四日市諏訪太鼓 龍雅

三重県四日市市で農耕武勇の神として、人々の信仰を集める信濃之國一之宮諏訪大社の太々神楽や、諏訪大社無形文化財御諏訪太鼓の鼓曲を承継しています。

● 磯部楽打ち

志摩市磯部町には、九鬼水軍の出陣太鼓と伝えられ、400年の歴史と伝統を誇る「磯部楽打」があります。鳥羽の九鬼嘉隆率いる水軍の太鼓船上で打ち鳴らす太鼓です。

● 志多ら

愛知県・奥三河を拠点として活動する和太鼓集団で、730年間にわたり伝わる国の重要無形民俗文化財「花祭り」などの伝統芸能を引き継いでいます。

「土地に根ざす音楽こそ本物である」という思いのもと、奥三河の風土を作品の世界観に取り入れた創作活動に取り組んでいます。

○『夜桜のライトアップ』

日没より、五十鈴川新橋周辺の夜桜をライトアップします。風のない日は、五十鈴川の水面に映る美しい桜もお楽しみください。

※雨天時は中止させていただく場合もあります。予めお問い合わせの上、お越しく下さい。

と き／桜が満開の頃 19:00~21:00

五十鈴塾

○『楽しい俳句』

わずか17文字にいろいろなことを詠みこむ俳句。筆記用具さえあればいつでもどこでも楽しめる手軽な趣味。難しいことをいえば貴族社会で楽しまれていた連歌から始まり、俳諧となり、芭蕉が芸術にまで高めた究極の短詩です。これを生み出したのが日本人であることは世界に誇るべきことです。日本語のリズムは知らず知らずに5・7・5になっているといわれます。つまり誰もが俳句を作る下地は持っているのです。いまや世界の人々が作る俳句、一度ぜひ作ってみてください。石井先生がわかりやすくノウハウを教えてください。

と き／3月24日(水) 10:00~12:30

講師／石井 いさお(俳人協会三重県支部長)

参加費／一般2,050円 会員1,550円

場所／五十鈴塾右王舎

講座についてのお問い合わせ・お申込み／電話0596-20-8251

五十鈴茶屋

○ 節気菓子

はる かわ
春の川

五十鈴川の流れがほんのり桜色に染まり、美しい風情を醸し出しています。色付けした葛寒天で桜餡を包み、春爛漫の気分に満ちた川端の景色を表しました。

の
野あそび

はるか昔から、人々が楽しみ、愛し続けてきた春の野遊び。古人の心を想い、よもぎの草餅をこしらえました。懐かしい摘み草の思い出が帰ってきます。

おう か
桜香

咲く様も散る様も美しく、古来より愛されてきた桜の花。こし餡を包んだ薯蕷ねりきりで桜の花をかたどりました。やわらかに香る春をお楽しみください。